

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
18	独立行政法人酒類総合研究所
題名(原題/訳)	
Epidemiology of alcohol-associated cancers. (アルコールと関連した癌の疫学)	
執筆者	
Brown LM.	
掲載誌(番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2005 Apr;35(3):161-8.	
キーワード	
飲酒、癌、疫学	
要旨	
<p>飲酒は特に喫煙と結びついた場合、口腔、咽頭、食道、喉頭癌の危険因子であることが良く知られている。近年、これらの癌の発生率はアメリカでは減少しているが、これは喫煙と飲酒の減少のためであると考えられる。疫学によって、慢性的な飲酒は肝臓癌リスクの上昇と関係があることが示されている。しかしながら、近年のアメリカでの肝臓癌発生率の上昇は慢性 B 型、C 型肝炎の罹患率の増加のためではないかと思われた。また、疫学研究は中程度の飲酒と結腸直腸癌、乳癌との関連を示している。これらの癌は開発国でよく見られる癌であり、小さなリスクの増加が重要な健康問題となると考えられる。これまでに疫学によって飲酒と癌の関連が示唆されてきたが、摂取するアルコール飲料の種類や摂取するアルコール濃度と癌発生との関係、軽度の飲酒と癌発生との容量依存性との関係についてはさらに研究が必要である。</p>	